



現状と課題

令和5・6年度埼玉県学力・学習状況調査結果より  
学力を伸ばした児童の割合

	R5年度 (県平均)	R6年度 (県平均)
R5/4年国語	—	68.8%(67.0%)
R5/4年算数	—	62.5%(56.1%)
R5/5年国語	88.1% (80.2%)	⇒ 47.0%(46.8%)
R5/5年算数	67.2% (67.0%)	⇒ 53.0%(54.8%)

\* 両学年とも主体的に行動することに課題がある。四則計算定着に個人差が大きく見られる。要日本語指導児童も数名いる。

現状と課題をもとにした仮説

充実した学級経営を基盤として、児童が自己効力感を高め、学習が「わかった・できた・楽しい」と実感できる授業を展開すれば、学力を向上させることができるであろう。

事業実施報告

- 通年 T・Tによる個別指導・支援
- 通年 児童実態に応じた教材作成
- 5月13日～埼玉県学力・学習状況調査
- 7月5日 第1回授業研究会
- 夏季休業中 校内スクラム会議
- 11月7日 第2回授業研究会  
(スクラム事業訪問)
- 11月12日 第3回授業研究会

仮説をもとにした取組内容

取組①

温かい学級経営を基盤とした学習環境の充実

- まちがいが許される温かい学級の雰囲気
- 意図的な他者理解の醸成
- 感謝・称賛の言葉掛けから自己有用感の醸成
- きめ細かい家庭との連携



取組②

該当学年における効果的な指導体制の充実

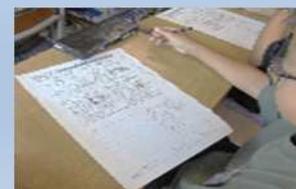
- 単元導入を工夫し、児童が生活に根ざした必要感のある問いや課題を提示
- スモールステップによる指示・発問などの授業改善
- 学習形態の工夫(習熟度別学習、T・T等)



取組③

学習の土台づくり

- 基礎的・基本的な知識・技能の定着のための意図的な問題提示による業前活動の充実
- 個々の課題に応じた指導(算数席)
- 振り返りの充実(本時・単元を通して)  
「振り返り6つの視点」



NIE教材を利用した業前活動

振り返りの視点

- ① 「わかった」「できた」
- ② 「楽しかった(おもしろかった)」
- ③ 「伝えられた」
- ④ 「不思議に思った」
- ⑤ 「次(学習・生活)に使ってみたい」
- ⑥ 「(前時までの学習が)使えた」

現時点での成果

成果①

スクラム担当教員との連携①

- スクラム担当教員を該当学年の副担任とすることで、充実した学級経営の一助となると同時に、児童の実態に応じ複数の教職員で対応するつまずきに寄り添った支援を行うことができた。

【県学力・学習状況調査質問調査から(令和6年度)】

- 「先生は、授業やテストで理解していないところや、間違えたところについて、わかるまで教えてくれましたか。」

【5年 95.4% 自治体平均より +6.1%】

【6年 95.6% 自治体平均より +5.0%】

成果②

効果的な学習形態の工夫

- 学年の実態に応じ、児童の学習意欲に沿ったグループ別の習熟度別学習やT、T指導の活用が単元に応じて実践されている。



成果③

スクラム担当教員との連携②

- スクラム加配教員が中心となり、きめ細かい教材研究などから、児童の意欲をかき立てる授業の導入や毎時間のノート指導が充実してきた。
- ICTの活用頻度が上がり、児童の学びを促す全員参加の授業展開が行われている。



全体成果

教職員の研修体制の構築と研修の意欲向上

- スクラム事業を通して、全教員間で学力・学習状況調査結果を分析・共有  
→授業改善の方策を立てる等PDCAサイクルが確立され、教職員が成果を実感し始めている。



課題及び次年度に向けて

- 当該学年の普段の様子や単元テスト結果などを見ても、学習意欲の向上や正答率の高まりを実感してきている。来年度の県学力・学習状況調査において成果を発揮することができるよう取り組んでいきたい。
- 児童の学び合い、主体的に取り組むような授業改善の素地はできつつある。今後は今まで以上に家庭力の向上にも取り組むことで更に学力向上を図ることができると全職員で確認している。
- 次年度にむけて、今後も、積み上げてきた指導体制の充実が維持できるよう、新たな学校の体制づくりが課題である。

5年生	学力を伸ばした児童の割合	
	B小	県平均
国語	68.8%	67.0%
算数	62.5%	56.1%